

毎年法界寺の境内長治公の墓前で別所一族によるおごそかな法要が行なわれる

●ルポルタージュ

北神戸をゆく

〈17〉

# 三木の別所氏

黒部 亨〈作家〉

戦争の悲惨なことはいまも昔も同じだが、戦国時代の城取り合戦のうちでも、兵糧攻めという戦術だけは、はなばなしい戦闘がないだけに、よけい陰湿で悲惨なもの

であった。

わが国の戦史上、兵糧攻めで名高いのは、播州三木城（別所長治）と因州鳥取城（吉川経家）の籠城戦で、どちらも攻め手は羽柴秀吉。しかも時期がほぼ同じで、前者は天正六年（一五七八）から八年にかけて、後者は翌九年と連続している。

秀吉みずから「三木の干殺し」「鳥取の渴殺<sup>かわさき</sup>」と称しているように、時間をかけて肉体と心理とをジワジワ締めあげるというやりかたは、豪勇の士はあまり好まないけれども、味方を損じないで勝利を得るにはたしかに最良の策であった。

三木城主別所小三郎長治と秀吉とがなぜ戦わねばならなかったか——これについてはいろいろないきさつがある。簡単にいえば、全国制覇を狙う織田信長の西進勢力と、それを阻もうとする芸州の毛利輝元との中間に位置する長治は、いずれにせよ東につくか西につくかの態度決定を迫られる運命にあったわけで、現代流にいえば大資本に併呑される中小企業か、道路開発の犠牲にされる弱小地主といった立場にあった。

別所氏が最終的に毛利に組したのは、代々、丹波の豪族波多野氏とともに毛利との友好関係の深かったためであるが、いま一つは名家名門意識が強すぎて、信長の代官たる秀吉に対する反感、軽蔑によるためでもあった。秀吉の智略を過小評価したところに、別所氏滅亡の一原因があったともいえる。



法界寺の本堂で地元の小学生を前に名物の「絵とき」が行なわれる



戦端のひらかれたのは天正六年二月下旬。別所方は三木の本城をはじめ、東播八郡の各地に散在する支城、砦のすべてが最初から籠城戦術をとった。秀吉軍七千五百を三木盆地に誘いこみ、四方から起って包囲せんめつするの狙いで、いずれやってくるはずの毛利の援軍をあてにした戦法であった。

俊敏な秀吉はいちはやくそれに気づいた。彼は三木に侵入した兵を急挙反転させ、ひとまず姫路の書写山を本陣としてここで背後の毛利に備えつつ、じつくり播州全体の地理を研究した結果、支城の一つ一つを攻め落して本城を孤立させる方針をたてた。

いらい、彼の作戦はほとんど図にあたっていた。その功績は秀吉の智謀というよりも、むしろ彼の参謀長格で希代の軍略家といわれた竹中半兵衛重治と、姫路城主でこれまた「今張良」といわれた軍師黒田官兵衛孝高に負うところが多い。二人ともこの合戦では秀吉の帷幄にあつて縦横の策をたてた。

これに対し別所方は、大将の長治が二十一歳の弱冠。



莊嚴な態をたたえる法界寺正門

しかも後見役の叔父二人——山城守吉親と孫右衛門重棟は、日頃の不仲が爆発して敵味方にわかれ、重棟は秀吉方に組して攻め手にまわるというハブニングが起った。

秀吉軍の支城攻撃は迅速果敢、しかも細心で正確だった。四月五日の野口城（加古川市）攻略を皮切りに、七月十六日神吉城（印南郡）、八月十日志方城（印南郡）、天正七年五月二十五日花隈城（神戸市生田区）、五月二十六日淡河城（兵庫区淡河町）等々——主だった支城はあいついで落城。三木城は手足をもぎとられて、しだいに孤立無援の状態に追いこまれていった。

秀吉は三木城北方の平井山に本陣をおき、三木城の周辺に三十余カ所の付城を配して、水ももらさぬ包囲網を張りめぐらした。城内には七千五百余のほかに、郡内十カ村の百姓も加わって立て籠っていたため、食糧はしだいに不足していった。

このままでは戦意を喪失するとみた長治は、一転して攻勢に転じることとし、十月二十二日、総勢三千二百余の軍勢をもって平井山の秀吉本陣を攻撃した。平山（平井山）合戦と呼ばれる激戦がこれで、平井山東南部一帯が戦場となった。明治になってこのあたりの土木工事が行なわれたとき、骸骨、毛髪、刀槍の折れなどがおびただしく地中から発掘されたことがあるが、それらはこのときの合戦のものである。

勝負は秀吉の功妙な応戦と、別所方の無暴な作戦によって別所方の惨敗におわった。戦死者は後陣の大將別所治定（長治の弟）をはじめ、将三十五人、卒七百八十余人、負傷者は数しれずというありさまだった。この痛手のため、再び籠城一点張りの期間がつづく。飢餓はいよいよ本格的となり、戦意は衰えていった。

頼みの綱の毛利は、べつに三木の苦境を忘れていたわけではなかった。軍船二百をもつて高砂、魚住の浜に救援物資を陸揚げしたものの、秀吉方の防禦網にはばまれて三木城に搬入することができなかった。こうなれば

乾坤一擲の冒險を敢行するほかはない。

第二の激戦は天正七年九月十日に行なわれた。大村、平田の合戦といわれている。すなわち毛利方は別所方とあらかじめ打ち合わせの上、兵糧搬入部隊を編成して加古川をさかのぼり、室山（小野市）から山の東づたいに三木盆地に出、城内からの受取部隊と合流する手はずであった。しかしこの企ても結局失敗に終り、別所方は名ある將七十三人が討死、卒八百余人を失なうという大打撃を受け、せつかく目と鼻の先まで輸送してきた兵糧の大部分を、秀吉方に奪われてしまった。

二度の合戦に打ちのめされ、飢えに苦しむ別所方にはもはや城外へ討って出る気力はなかった。それと察して秀吉は一挙に包囲網を縮小し、城までわずか五、六町の距離に接近した。

城内の飢餓は最悪の状態になっていた。木の芽や根、草を食いつくすと、こんどは木の皮をはいて食べ、鳥はもとよりネズミ、カエル、ヘビを食い、それもなくになるとひかえの馬を殺して内臓まで食べ、やがて最後の馬も食べつくした。飢死者、病死者が続出し、堀の下、狭間の陰などに屍の数がふえていった。城内はまさに一幅の



地獄絵で、秀吉のいう「三木の千殺し」は着々と効果をあげてきた。

天正八年正月六日、秀吉は一気に攻撃を開始した。そして十一日には別所友之（長治の弟）のたてこもる鷹ノ尾城と別所吉親の守る新城を陥れた。城兵は衰弱のため鎧をつけて動くことができなかった。三百人ばかりの若者が、素肌のまま刀の先をそろえてヨタヨタと出てきたものの、手足が思うように動かず、敵と渡り合える者は一人もいなかった。全員「草をなくように」斬り殺された。

長治が秀吉に降伏の使者を送ったのは同月十五日であった。降伏条件として、長治、友之の兄弟、叔父吉親三名の自害を代償として、罪のない士卒、領民を助命してもらいたいと申し送った。秀吉はこの申出を快く承諾、酒、肴を贈って長籠城の労を慰めた。長治は翌十六日、全將兵を大広間に集めて自決開城に決した旨を伝え、長年の忠節を謝し、秀吉から贈られた酒樽をぬいて最後の別宴を張った。

翌十七日、まず長治兄弟と吉親の妻子が自害。遺体を庭で荼毘に付し、次いで長治兄弟が切腹。家老の三宅治忠がこれを介錯して切腹。吉親はこのとき急に態度を変

境内にある長治公の碑



えて玉碎戦法を主張しはじめたので、家臣のために殺された。長治二十三歳、友之二十一歳、籠城以来一年十一カ月目に三木城は落城し、別所氏は滅亡した。

長治夫妻の辞世の和歌――。

今はただ恨みもあらず諸人の

命にかはる我身と思へば (長治)

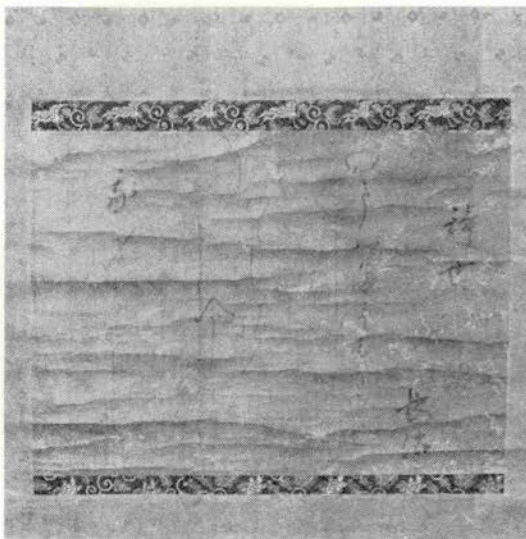
もろともに消えはつるこそ嬉しけれ

後れ先だつならひなる世に (妻)

秀吉は翌十八日、約束どおり城中の男女をことごとく助命して城を立ち退かせた。

長治の遺骸を葬った虚空山法界寺は、別所町東這田にある。今年も例年どおり、二月十七日（以前は一月十七日の忌日）に赤松、別所氏の子孫たちが集まって、盛大な「別所公御祥忌法要」が行なわれた。

傾斜のゆるい石段を登って三門をくぐる。境内の右側に建っている本堂の中では、すでにこの行事の名物ともいわれる「絵とき」がはじまっていた。絵ときというのはこのまつりの恒例行事で、同寺につたわる「三木城天



別所長治公直筆の辞世の一部

正中合戦図」三幅を本堂の壁に掛け、参会者に三木合戦の顛末を講釈する行事である。この絵がいつごろから同寺につたわっているのか詳でないが、一枚が襖二枚ちかくの大きさですべてカラー。中にえがかれているのは各支城の合戦模様、城内の戦評定、飢餓状況、別所一族の切腹場面など、一コマ一コマがたんねんにえがかれている。斬り取った首から血が流れて、鎧が赤く染まっているという迫真ぶり。

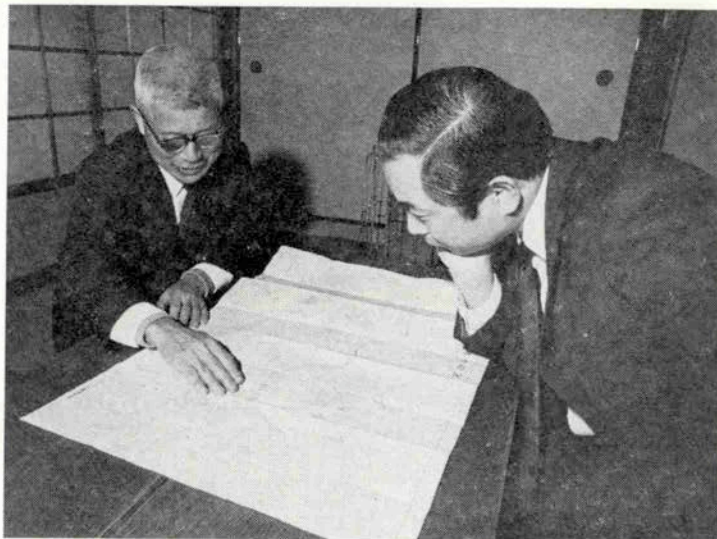
今日の絵ときは別所町花尻の高芝郁夫さん(62)。書物にすれば数十ページにわたる三木合戦物語を暗記し、絵の各場面を指示しながら独特な節まわしで解説していく。先生に引率されてお詣りにきている地元の小生たち数十人も、冷えこむ本堂に行儀よく坐って遠い先祖たちの苦闘にかたずをのんでいる。

本堂内には、正面に長治夫妻の霊牌がまつられている。その左側に夫妻の木像が安置され、右側には一族や主だった家臣の位牌が何十となくひしめきあっている。四百年前にわかれわかれになった主従は、この寺で再会して静かに眠っているわけである。

一時間あまりで絵ときがすむと、各地から参集した別所氏の子孫たち七十名ばかりが本堂に集まり、おごそかな法要がはじまった。年輩の人もあれば二十代の人もいる法要がおわってから、その中の一人に会ってまず名前を聞いて驚いた。これがなんと偶然にも別所長治さん(50)で、遠祖長治公とまったく同姓同名。「大阪からきてまんね。毎年、この法要には欠かさずおまいりしています。法要ばかりやおまへんで。盆や正月にもきますさかい、平均年に四回はきてまっしゃろな」

この時間と空間をこえた紐帯感はいったい何なのだろうか。神仏や先祖をまつる風習の失なわれていく現代にあって、法界寺のこの行事は、観かたによれば現代そのものに對する一つのアンチ・テーゼととれなくはない。

法要がすむと、一同は本堂を出て、墓地の一面にある長治公の廟所に詣でる。廟の中には大きな五輪が三基。



三木市の地図をながめながら戦略の説明をする高芝さんと筆者（右）

がるわたくしたちは、今後も仲よく手をつなぎ、扶け合い、祖先に恥じないように努力いたします」と宣誓する。祖先を同じくする者の血の交流が感じられ、和気あいあいたる酒盛りである。話がはずみ、歌がでる。床の間ちかくに、長治夫妻の辞世の和歌が掛けられている。そういうえばこの寺には狩野秀信の筆になる夫妻の画像もあると聞くが、残念ながら実見の機会がなかった。

法界寺ですっかりごちそうになり、午後、上の丸町の雲竜寺を訪れる。こゝも別所氏にゆかりの深い寺である。あいにく寺は工事中、住職も不在とのことで、寺宝となっている別所氏関係の遺品（定紋入りの茶碗、鑑など）は拝観できなかった。庫裡の裏にある長治の首塚に詣でる。この寺に長治の首が葬られているいきさつについてはちょっと説明を要する。雲竜寺はかつて三木城内にあった禪寺で、長治兄弟自害のとき、同寺の六世哉庵惠善和尚が同席した。長治は和尚に後事を託し、日頃愛用の九曜の定紋を打った金天目の湯のみ、綴錦に唐子遊びの模様を織りこんだ軸を形見としてあたえた。

自害した長治の首は秀吉の陣中に運ばれ、秀吉はこれを安土の信長のもとへ送った。このあと雲竜寺七世の安室春泰和尚が特に信長に請うてもらい受けて帰り、現在地にねんごろに埋葬した。場所が元の土堀の外にあるのは、信長への遠慮からであろう。現在、同寺でも毎年一月十七日の忌日に長治公追悼行事として「うどん会」なるものがある。区長会主催の行事で、法要が行なわれたのち参会者たちは首塚に詣でて冥福を祈り、本堂に集まってうどんを食べつつ往時をしるぶならわしになっている。

以前はこの日だけ米食を断ち、籠城中の飢餓をしるんで代用食ですますのが三木のしきたりだったという。これら各種の行事をいろいろ見てくると、別所長治は三木市民にとっては決して過去の人ではなく、いままなお人々の心に深く生きつづけているようである。

墓参がおわるとちょうど午で、全員庫裡の広間に集まって酒宴となった。代表者が「……長治公の子孫につな



# 刀 剣

日本民族の象徴である美術刀剣武器具甲冑を豊富  
に取揃え皆様のご来店をお待ちしております。



鑑定 買入  
研 白鞘 拵 御承処  
神戸市生田区元町通6丁目25番地  
刀 美術 鑑 古骨  
〒650 TEL078-351-0081



呉服の粋

赤

坂

本店 神戸市生田区元町通六丁目  
(341)五五・八・八六五三  
大丸前店 市電大丸電停山側(391)三一六四



MY・KOBЕ〈5〉

# 須磨離宮道

筒井 康隆

カメラ／杉尾 友士郎



離宮道を歩いて歩いて……。



戦後の「公園」と名がつく場所のうす汚なさを  
知っているせい、今でも公園にはなかなか足が  
向かず、だから須磨離宮公園も、いつも神戸から  
垂水のわが家へ戻る途中、タクシーで前を通って  
いる癖に、一度も入ったことはなかった。入って  
みたら、公園というよりはむしろ庭園だった。も  
ともと離宮だったのだからこれはあたり前だが。  
正式に公園として開園されたのが四十二年なの  
で、設備もまだ新しい。離宮そのものは戦災で全  
焼しているから、離宮の庭園といった神々しさは  
なく、やたらに明るい感じのむしろヨーロッパ風

の庭園である。

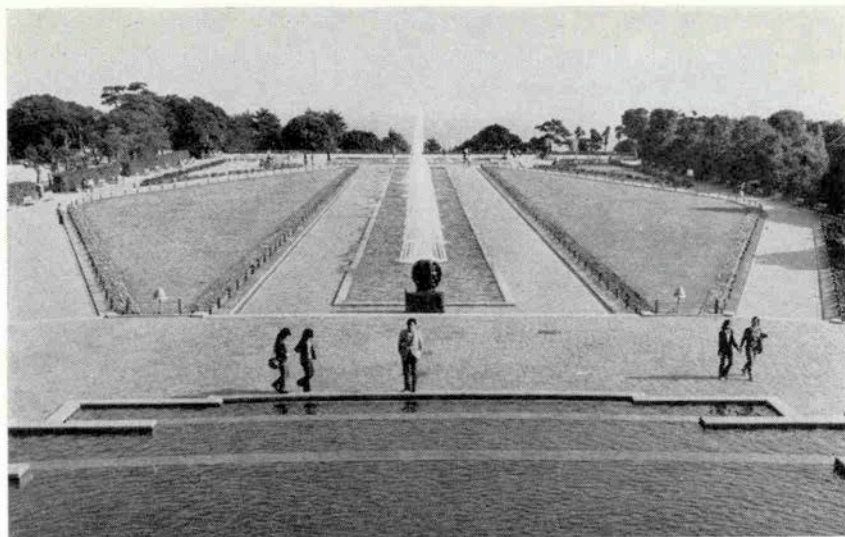
レストハウスの下が龍になっていて、この水が  
噴水まで続いている。このあたりが広場になっ  
ていて、ここではよく彫刻展などが催され、その名  
残りの近代的な彫刻が、二、三、残っている。

若い娘の三、四人づれが大変多い。女のアベツ  
クも多い。男はあまりいない。

木立に囲まれた斜面の芝生で、女同士のアベツ  
クが寄り添って語りあっている、わざわざそ  
ばまで行ってよく見たら、片方は男だった。うし  
ろから見ると男だか女だか、さっぱりわからな



しんどいのでちょっと一休み。



須磨離宮公園。女のアベックも多い。僕だけ一人。

い。  
この公園は夜の九時までやっている。夜は噴水に七色の照明が入って綺麗なのだそうだが、それよりはむしろアベックを覗きにきたいという助兵衛ごころがそえられる。野郎ひとりが出函亀にやってきても、追いつけないのだろうか。

正門を出て神明道路を越えたところから離宮道がはじまり、海岸近くまで続いている。山陽電車の踏切のあるあたりまでは松並木が続き、両側い

ずれも豪邸ばかりが立ち並んでいる。特に「清瀧荘」などと自ら名付けていられる某

氏の邸宅など、まさにお城である。表札にはずらりと家族の名が並んでいて、大家族制を今にとどめるといった感じ。正門にしても巾一間はあり、ここから砂利道が曲りくねって坂となり、奥へへびている。母屋に歩いてたどりつこうとすれば、さぞくたびれるだろうと思う。邸内はひそとして音もない。座敷牢もあるのではないか。

この邸の近くに、おそらく三、四千万円はかかっているだろうと思える近代的な邸宅があったが「清瀧荘」の近くに建てたのが運の尽き、まったく目立たない。

山陽電車の踏切の手前に、さびれ果てた「松風村雨堂」がある。

須磨に流罪になった在原行平が愛した姉妹、松風と村雨にまつわる悲しい伝説をとどめるお堂である。鉄の柵がしてあって、お堂の前までは行けない。

離宮公園からここまでが、いわゆる離宮道なのであろう。まことに静かな散歩道である。車の数が減ると、もっとよくなるのだが。

山陽電車の踏切りのところで、背の低い、手入れのゆきとどいた松並木は終る。この山陽電車の線路に沿って、西へ行っても東へ行っても、静かな散歩道は続く。西へ行けば須磨寺駅だが、ここへ出るまでには頼政薬師、元宮長田神社、松浦武四郎の石柱などがある。東へ行けば月見山駅へ出る。こっちの方向には「清瀧荘」級の大きな屋敷が並んでいるから尚さら静である。

踏切りを越え、ぼくはまっすぐ坂を下った。次第に小さな民家や商店などがふえてくる。やがて左側に西須磨小学校。この小学校には、須磨に別





海辺の旧和田岬灯台。ここにくるとホッとするのだ。

莊を持っている名門の財閥の子弟が通う須磨浦小学校も対象的な学校だった。大正天皇が須磨離宮に泊られると生徒は旗ふってお迎えしたとか。

このあたりからぼつぼつ、潮風がねっとりと肌にからみついてくる。

国鉄の踏切へ出る。すぐ西が須磨駅である。駅へ出るまでには綱敷天神、諏訪神社などがあり、中道へ入ると古い家並みがずらりと続いている。途中で、いちど行きたいとは思っているのだが、今日はだいたい歩いて疲れたので、もう行かない。踏切を越すとすぐ国道二号線である。国道二号線は浜辺に沿っている。いつもながら、海に出るとほっとする。ここの海岸には真紅に塗られた鉄骨の灯台がある。これは旧和田岬の灯台である。明治

四年に木造の灯台として和田岬に建てられ、明治十七年に鉄骨の灯台として建てなおされたもので、鉄骨の灯台としては、本州で現存中最古だというのが謳い文句である。この場所へ移されたのが昭和三十八年。海岸をぶらぶらし、レストハウスで刺身を食った。水槽にはでかいハマチが十数匹泳いでいる。このあたり、夏になれば海水浴客でぎっしり満員になるのだが、シーズン・オフのこととて静かである。

二階で宴会をやっていて、これが結婚式の披露宴だというのでいささか驚いた。近くに神戸市立の結婚式場もあり、レストハウスの二階とはいえ魚がうまくて安あがりだからであろう。眺めもよい。まことに実質的で神戸的な披露宴である。

間遠にはぜる炭の音

馥郁とただよいかける

炭やきの香

どこであれ心ときめけば

そこがあなたのふる里です

炭やき ステーキ  
しゃぶしゃぶ

**六段**



元町3丁目・中突堤筋  
☎ 神戸(331) 2108  
12:00 A M ~ 9:00 P M

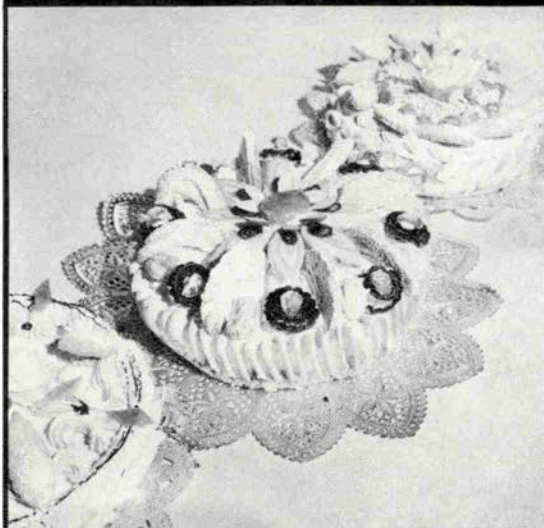
STEAK 1,600円  
BARBECUE 600円  
しゃぶしゃぶ 1,800円

**ROYAL**

フランス菓子  
ローヤル

**CAKE  
& COOKIE  
& BREAD**

ホームメイドの味



みんなの友達 カメヤのおもちゃで楽しい水遊び



おもちゃの

**カメヤ**

三宮方面でのお買物は……

さんちか店

三宮店

ファミリータウン 391-4045

三宮センター街山側 331-4969

元町方面でのお買物は……

元町店

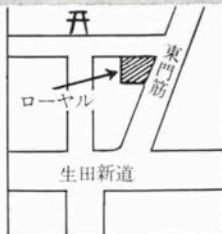
パンブウ店

元町通3丁目山側 331-0090

元町通1丁目不二家前 391-0768

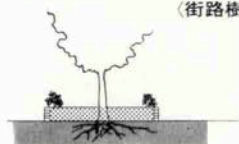


神戸三宮生田東門筋  
TEL. 331-5628



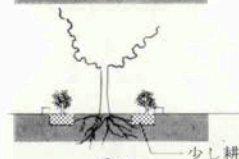


《街路樹の植え樹に草花を植える方法》



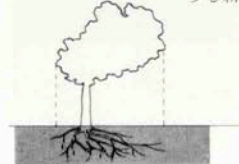
(悪い例)

土盛によって樹木の根の呼吸ができなくなる。

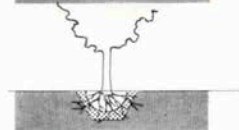


(良い例)

少し耕しておく。



1. 根の位置は、ほぼ樹冠の投影面にある。  
根が下にのびるものと、横にはるものがあるから注意する。



2. 鉢の大きさよりも少し大きめに掘り出す。

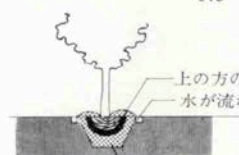


3. 掘り起した根に土をつけたまま、縄やむしろなどまいて移動中に細根が切れないようにする。

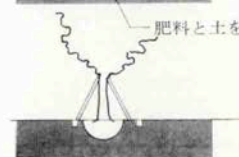


0.5~1.5M

4. 穴を掘る場合、上の方のよい土は横にのけておく。鉢より少し大きめの穴を掘り、深さは0.5~1.5m位掘る。粘土層が出てきたらあきらめる。



5. 十分に水をやって根の周りの土をしっかりとめる。



肥料と土を混ぜておく。

6. 木がゆれ動くことで、新しく出た根が切れないように、しっかりした支柱をたてる。

★あなたの家の近くや、通勤・通学・買物の途中に、空地はありませんか？既成市街地・密集街区といわれても、あちらこちらに街の美しさを台なしにするようなかたちで放置されている土地は、その気になってみればずいぶんあります。

その空地へ、手あたり次第に木を植えてしまってください。もちろん、あなたが、他人の土地だから、道路の予定地だから、といって遠慮はいりません。まさか、木を植えるぐらいで不法占拠で訴えられることもないでしょう。せいぜい、植えた木をひっこ抜かれるぐらいです。

★道端や街園などに町内会が花壇を造ったり、長屋の路地に草花が誰のものでもないのにきれいに手入れされていたりしています。そんな形で、セミパブリックな樹木を街のなかに増やしていくことがゲリラ式グリーン作戦の戦略目標です。

★そのために、あなたが樹を植える時の作法の極意を二、三紹介しておきます。

- 樹木の移植時期は、落葉樹では落葉期間中でとくに新芽の出る直前、常緑樹では新芽の出る直前と新芽のかたまつた時期が最もよい。つゆ時もそれについて良い。タケ類はタケノコの出る直前がよい。
- 移植に伴って、樹木の根がかなり切れてしまうため、葉からの水分の蒸散量を少なくするため葉をおとす。その場合、落葉樹や常緑広葉樹は枝ごと落としてもよいが、針葉樹は全体的にまばらに落とす。
- 鉢（掘りおこした根の土つきの部分）の大きさは、木の根本の直径15cm以上のものは、根本直径の4倍前後、直径9cm以下のものは5~6倍。
- 掘ってくる木は幼木がよい。その幼木はどこにあるかといえば、ブルドーザーが、走り廻る宅造現場が、悲しいことにあちらこちらどこにもあるはずだ。
- 移植方法の詳細は、図解部分をみよ。
- ツタは樹木よりも容易に移植できるから、ぜひ甲子園や宝塚大劇場へ行った時に、新芽を含めて先端を15cmぐらいをちょん切って、ポリ袋に入れてもって帰り、1日切り口を水につけて水あげさせてから、土中につきさす。そうすれば、あなたの家の前の金網のフェンスは、うまくいけば2、3年後に、緑の壁になるでしょう。

★土の条件や気候などでもいろいろケースが異なり、うまくいかないことも多いでしょう。失敗したら、もう一度やってみてください。移植して、毎日水をやり、気長に待てば30年後には、うまくいけば立派な木になります。

★それでは、建闘を祈る。〈畠山通之〉

神戸のアーバンデザイン  
《神戸のみどり》  
ゲリラ式グリーン作戦

水谷順介＋チーム・UR

74

★住宅を建ててそれを使いつづけていくと、なにかと修理の必要が出てきます。戸のしまり具合が悪くなったとか、水洗便所の臭気もれとか、雨もりとか、よくもまあこんなに次から次へと、といった具合です。この場合、次から次へと事故が発生するのはともかくとして、より困るのはその修理のいい頼み先がないことです。何度も何度も電話をかけて、やっと頼むことができてほっとしても、なかなか現れなくてイライラする、なんて経験をお持ちの方が多くのことだと思います。

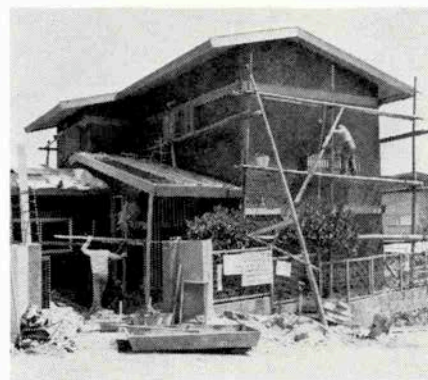
修理の人がやってきて親切に直してくれればいいのですが、直すより買いかえる方がいいですよ、なんてドライに扱われたりして、なんてひどいことをとどなりたくなることもしばしばだと思います。使い捨て、無駄使いがこんな事情でやむなくされているのです。

修理の次に出てくるのは増築です。この増築にあたって、先日こんな実話にぶつかりました。増築を大工さんに相談したら、そんなめんどろなことはいやだ、全くの建てかえならやるということで、やむなく元の家をぶっこわして新しいのに建てかえたというのです。元の家は木造のまだ立派なものだったのですが、今度はプレハブです。プレハブの買いますめしかやらないという大工さんが現れたのにはびっくりしました。

まだ十分使える元の家を壊して新しい住宅商品を買う……お金も大変です。また、社会全体にとっても無駄な消費です。家の廃材は大きな産業廃棄物でもあります。その処理の経費と場所……。



改築2カ月前の木造住宅



改築中のプレハブ住宅

新しい家を建てることしか考えない大工さんと建築家、これは大問題です。住宅を売るだけでなく、住宅を使いつづけていくことに親切に相談にのってくれ、職能の原点をふまえた都市住宅センターが街のあちこちに、ということを実際に考えなくてはならなくなってきました。（水谷頤介）



# 神戸遊戯誌 116



神戸市 投輪連盟

布引道場



宮本 秀夫氏



森 豊夫氏



中川 一夫氏



荒川 博之氏

投輪 ② 青木 重雄

## ★老人ホーム、団地にも好適

投輪（輪投げ）競技の今日までの由来や用具の紹介などについて前回述べたが、今回はまず現在行なわれている競技のやり方について紹介してみよう。昭和三年に誕生した神戸投輪連盟が投輪を単なる遊戯から正式のスポーツ競技に高めるため努力したことは大きな功績だが、その一つに日本投輪ルールの決定（同連盟でパンフレットとして発行）が挙げられる。もっとも、スポーツ競技としての歴史はわりあい浅いため、競技ルールはまだ所によってまちまちの点が見いだされるが、連盟では用具のサイズや競技方法はもとより、競技場の明かるさまで規定した詳細なルールを作っており、戦前の遊戯本位、娯楽本位のやりかたから投輪を数段進歩したスポーツ競技の域にまで高めていることは事実である。

投輪台のヤリのように突き出た九本の鉄棒に輪を投げ

て、輪がはいった点数の合計の多いものが勝ちとなるわけだが、はた目には簡単に見える投輪もルールに従って本格的に始めると、奥は深い。競技種目も公式に三種目があり、個人、団体戦（一チーム九名、補欠二名計十一名）の両方が行なわれる。「日本投輪ルール」から競技方法について拾ってみると、投げ込み、特別シングル、特別ダブルの三種目があり、▽投げ込みは、一組「九本」投げた輪がいずれの棒にはいってもその合計を得点とする（最高点八一点）▽特別シングルは、各棒に一本づつ輪を入れて採点する。一本の棒に二本の輪がいれば全部無効（最高点四五点）▽特別ダブルは、一本の棒に二本づつ輪を入れて採点する。一本の棒に三本以上の輪がいれば全部無効。（最高点六十点）とそれぞれ規定されている。その他反則無効や審判の点についてもくわしい規定がある。

やりかたがボウリングに似ているが、足腰がふらつ

てはダメで、その点足腰をきたえるにはもってこいの競技である。また、戸外でもできることはボウリング以上に健康的であり、金もそうかからない。神戸市内各道場の会費は年間二千五百円だし、神戸投輪連盟の年間会費も五千円である。「こんなに安い費用でおとなでも子どもでもできる手軽なスポーツは他にありませんよ。それでいてやればやるほど楽しみが味わえる。投げた輪が自分の思った場所にはいった時の気持ちよさ。思わずぞくぞくする。ゴルフのホールイン・ワンと同じですね。練習をくりかえしていると、輪が手を離れた瞬間に手ごたえ的にはいるかどうかかるんですよ。全くその手ごたえは何ともいえませんなあ」とは、平均十年以上のキャリアを持つ同連盟所属の某ベテランの感想談である。また、長年やっている人たちからは「いくら技術が上達しても精神的にぐらつく」と絶対に勝てない。輪投げは高度のメンタルゲームだ」という声が聞かれるが、一見簡単なゲームに見えてもなかなか複雑な心の準備が必要になることがわかる。

さて、現在の投輪ファン数は一クラブに三十人平均として全会員約四百五十人、これに会員の三倍数はいると思われる一般ファンの数を加えると合計千人ほどになる。それに年々全国的にふえつつある県外のファン数を加えると三千人ぐらいいになるのではなからうか。東は東京、横浜から西は山口、下関へかけての各一流会社からこのところ種々問い合わせがあるが、近い将来全国大会が催されることは目に見えているといつてよからう。現在ではいうまでもなく神戸で毎年行なわれる市長杯争奪大会（団体、個人戦）が名実共に全国大会を兼ねているわけだが、団体戦Aクラスでは昨年度大会までのところ平均して神戸製鋼チームが最優秀で優勝の数も多く、つづいて布引、川鉄、神鋼大久保、ツキワとなっている。また、Bクラスは神鋼Bチーム、市交通局、布引B、川鉄B、ツキワBの順となっている。

老人ホームではお隣りの大阪市にある四天王寺悲田院

の同ホームが神戸投輪連盟の指導で昭和四一年から始めて、老人たちの健康と娯楽によい成績をあげている。ここには三百人の老人がいるが、四二年五月から段數位認定試験というのを始めたところ、この時は八五名が受験して七六名が九級（十级以上）になり、第二回には三名が八級（二十级以上）、第四回目には四九名が七級（三十八点以上）、第六回目には二二名が六級（四十点以上）、第七回目には三名が五級（五十点以上）としいに腕前をあげたが、今日では一級（九十点以上）や初段（百点以上）、二段（百二十点）、三段（百四十点）等のチャンピオンを含めてほとんどの老人が合格点をとっているほどの成長ぶりである。

もっとも彼らの段位認定規則は規定ルールよりもゆるく、投輪距離は四メートル（規定は男子八・五メートル、女子は七・五メートル）、競技は投込五回投げの合計点数等となっている。

悲田院老人ホームには盤が何十台とあるから三百人の老人が楽に楽しめるわけである。神戸市では長田区の川上町老人ホームが二台の盤を置いて老人に使わせているが、他の老人ホームがほとんどやっていないのは寂しい。

子どもから六十歳以上の老人までできること、盤と輪さえあればそう広くない場所でもやれること、会社の休憩時間や団地主婦たちの暇な時間が利用できること、雨天でも室内でやれること等、投輪の手軽さはなんといつても最大の強みである。

しかも神戸で生まれて神戸でのみ発展したこの娯楽スポーツが神戸市民や兵庫県民によってもっともってプレイされ、愛されてほしい、と神戸投輪連盟の会員たちは語っている。

（四八・三・二七記）